



プロジェクト名	ウガンダ北部における元子ども兵士社会復帰の為の職業訓練センター建設プロジェクト
実施地域	ウガンダ共和国 グル県
実施期間	6カ月間（2007年3月7日～9月6日）
ターゲットグループ	元子ども兵士／最貧困層住民
受益者数	約600人
プロジェクト目標	元子ども兵が職業技術を身につけ収入向上活動を始めていく為の施設が整備され、元兵士と住民がこの施設の共同建築作業や、和解促進の為のワークショップを通して両者の和解が促進される

## (1)プロジェクトの概要

日本のODA(政府開発援助)【日本NGO支援無償資金協力】を受けウガンダ北部のグル市において、反政府軍(LRA)に拉致され兵士とされてきた元子ども兵の社会復帰を目的として、服飾デザイン、木工大工の職業訓練施設及び施設敷地内のブロック塀を建設し施設内の機材・備品を整備しました。また、元子ども兵と地域住民の融和・和解促進の観点から建設作業員は地域の貧困層の住民とLRAの元兵士を雇用し、共同作業を通して両者の和解を促進していくと共に、同地の伝統的和解メカニズムを基にしたワークショップを期間中4回開催しました。本施設は現在、[ウガンダ北部における元子ども兵士社会復帰支援プロジェクト](#)を実施する為の施設として活用しています。

[プロジェクトの最終報告書はこちら](#)

## (2)施設建設作業の様子



(写真上) 建設資材の搬入作業の様子。盗難や必要以上の資材購入などのリスクを避けるよう敷地内の倉庫で資材を管理し、警備員が数量などをチェックしています。停戦が合意されたとはいえ紛争地域、このような地域ではスタッフが安全に活動するためにも、プロジェクトを計画通り円滑に進めるためにも、何よりも安全管理が大切な仕事の一つです。



(写真上) 建設資材(レンガ)搬入と基礎工事の様子。土地を平らに整備した後、建物の壁になるラインに沿って深さ約70cmの溝を掘る作業です。作業はすべて手作業です。こういった共同作業を通して加害者として責められることのある元兵士も被害者である住民も一緒に汗を流しながら働いてくれました。両者の初めての共同作業を見て、まだまだ先は長くても、平和な未来へ向けての小さな始まりを感じました。



(写真上) やぐらを組んでレンガを屋根のレベルまで積み上げていく作業。レンガをバケツリレーのように一つひとつ運んでいく作業が炎天下の中続きましたが、これで無事、予定していた前半の建設工程が完了しました。この工程まで大きな建設機材などは使わず基礎工事からレンガ積み上げまでほとんどが手作業でしたが、元兵士も住民もみんな協力してよくがんばってくれました。また、この頃には元兵士でも住民でもほとんど関係なく、休憩時にはみんな楽しく話が弾んでいたのが印象的でした。



(写真上) 屋根工事でドア・窓枠の設置作業。木材で屋根の骨組みを作り、その上にブリキ板をのせて固定していく作業です。屋根が完成し施設の窓とドアを設置し終わり施設の骨格が完成しました。



(写真上)内装、外装、電気配線工事が終わり施設が完成。敷地内の整地、清掃作業はこれから施設を利用して行く訓練生たちが行い完了しました。



(写真左上)完成した施設内(職員室)



(写真右上)完成した施設内(カウンセリングルーム)



(写真上) 完成した施設内。服飾デザイン訓練ルーム(左)と木工大工訓練ルーム(右)。それぞれの訓練に必要な訓練資機材が整備されました。

### (3) 和解促進のためのワークショップの様子



(写真左上) 第一回目の元子ども兵と地域住民の和解促進の為のワークショップの様子。アチョリ民族の伝統的な和解方法について学び、参加者が自らの意見を発しながら参加型のワークショップ。写真の男性(右)は18年間反政府軍で兵士として戦われてきた元少年兵。



(写真上) ワークショップの中で演劇を通して和解や平和について学んでいる様子。平和的な問題解決とそうでない場合の2つのパターンを演劇で表現し、平和について参加者が意見を出し合いながら、伝統的にはどうやって物事を解決してきたのかを学んでいる様子です。



(写真上) ワークショップに参加した元少女兵(チャイルドマザー)たちと建設作業に関わった元少年兵と地域住民たち。



(写真上) 第2回目のワークショップの様子



(写真上) 第3回目のワークショップの様子



(写真上)第4回目(最終)のワークショップの様子



全4回の和解促進の為のワークショップを建設作業員を含め元子ども兵士と現地住民を対象に開催し503名がワークショップに参加しました。リピーターを含めるとワークショップの全参加人数は累計で838名に上りました。また、各回のワークショップ後に意識調査(アンケート)を実施した結果、84%の参加者が元LRA兵士と住民の和解は将来のコミュニティにとって重要であると回答している一方で、60%の参加者がそれ(和解)を実現することは難しいと回答しており、今後、紛争が終わった後、地域の人たちが平和に向けて歩み出す為にも双方の和解を促進し、共に生活を再建していく為の支援活動が必要だと感じました。(意識調査の詳細は最終報告書参照)

#### (4)ブロック塀の建設と道標の設置



(写真上)基礎工事の様子。2000平方メートルの敷地に深さ1m弱の穴を掘りそこにセメントを流し、そこにレンガを積み上げていく作業です。





(写真左) 完成したブロック塀。ゲートも設置されました。



(写真上) グル市内の中心街、県庁前など3箇所に施設の道標も設置されました。

[プロジェクトの最終報告書はこちら](#)